

## 【知事臨時記者会見】 7月23日

設置場所は、佐賀市八丁畷町の佐賀総合庁舎敷地内とする。南に佐賀商業高校、北にサンライズパークや佐賀市文化会館、NHO佐賀病院があり、東に佐賀北警察署や致遠館、ゆめタウンなどの商業施設が位置する県有地。

現在、本館には佐賀県税事務所や佐賀中部農林事務、東部教育事務所、土地開発公社、道路公社などが入っている。別館には、材料試験センターなどが入居。

現在入居中の県の施設は移転し、約1.4ヘクタールの敷地全てを県立大学の施設用地とする。本館は改修して事務所などに、南側の施設は撤去して、新たに校舎を新築する。

選定の考え方を説明する。令和5年2月、県立大学の基本的な考え方をお示した。その後、13市町から要望があり、30か所以上を検討した。

まず、できるだけ早い開学を実現したい。全国で4年制県立大学がないのは、栃木、徳島、鹿児島、佐賀の4県。しかし、栃木には4年制大学が9、徳島は4、鹿児島は6あり、佐賀は2大学だけ。県立大学の機能に、産業界、農業界などへの人材輩出がある。その連携を図らなければならない。県の研究領域のニーズに合致する大学の早期開学が必要だ。県内の4年制大学進学者約3,500人のうち、約3,000人が県外に流出する構造的問題もある。早く手を打ちたい思いがあった。タイムリーに拠点化した県立大学をつくり、その後、社会情勢の変化に応じて新学部をつくりたい。

次に、この土地は県有地なので障壁が少ない。県有地のため、調整がしやすい側面がある。調整に手間取って時期がずれ込むことを防ぎたい。また、近隣にはサンライズパークや佐賀市文化会館があり、大学のグラウンドやホールとして活用が可能。佐賀商業や致遠館とも近いので高大連携ができる。商業施設も近く、佐賀駅からも徒歩圏内。

つまり、大学として躍動感が増す場所、学生にとって拠点として刺激的な場所。ここをベースに全県下をフィールドワークできる。佐賀県立大学創立の地としてふさわしいと考るに至った。

これまでの経緯について。手が上がった13市町以外にも民有地も含め検討した。今年になり、専門家チームを交え検討が進んだ。6月には、教育方針と施設機能の考えを整理。施設機能は、コンパクトさ、交通利便性、他大学との連携が必要と考え、県都佐賀市がまず候補地に上がった。6月末、佐賀市から具体的な提案があり、庁内で検討を重ねた。落合副知事と池田佐賀副市長の間で、厳格な情報管理の下、交渉を進めた。

実は、昨年からの佐賀総合庁舎案は「プランZ」と呼び、1つの案としてもっていた。ただ、これを上回る案の可能性もあるため、「プランZ」は最終的な選択肢になり得ると捉えていた。

6月末の佐賀市との意見交換の中で、私たち発案の「プランZ」の協議を重ね、坂井

市長から周辺整備も含めて協力の確約をもらい決定。7月21日に合意した。7月中に進出協定を結び、具体的に検討を進める。

入居機関の移転先確保も必要になる。また、庁内の現場にも話していないので、これから課題がでる可能性もある。スムーズな移転となるよう、関係者とは真摯に話し合いたい。

県立大学は、県内各地を学びの場と想定している。定員200人台の大学規模の拠点としていい場所に決まった。フィールドワークは、県内各地で行う。その際のベースキャンプは、20市町にお願いすることになる。長いスパンで考えると、学部新設もある。13市町からいただいた具体的な提案は、今後生かしたい。

新たな時代を創ろうとしている佐賀県立大学。学生、地域、県、産業界、すべてが盛り上がる大学を作りたい。県民の皆さんのご協力をお願いしたい。